

青空 おやつ の し ぐ み

おえかきすると... おやつがもらえます

かいた えは... もってかえる

わたした えは... 青空おやつに

開催日時やおやつ協力、ボランティア募集などの詳細はこちら▼

※イラストは「やゆようこ」名義で絵本なども手掛ける鈴木さん作



そんな二人が2020年に始めたのが「青空おやつ」です。「緑のまつり」でブースを出した時、5月なのに真夏の服装で、何度も人恋しそうにやって来る子がいた。何かできることはないか考えるようになった。鈴木さんは、始めたきっかけをそう振り返ります。思い付いたのは、誰にでもできる絵を使って「やさしさをふやすぐみ」をつくること。気持ちよく絵を描いてもいいおやつを渡す。絵を気に入った人

テイラミスは、鈴木洋子さん（岡田）と松村剛司さん（岡田）が、8年前に設立したデザイン事務所です。共に市内の小学校を卒業し、多くの時間を厚木で過ごしてきた二人。これまで、市のPRポスターや動画などに加え、アユやホルモン、イチゴ、ヤマビルなどをモチーフにしたグッズも手掛けてきました。

日曜の昼下がり、厚木中央公園の木陰に張られたシートの上で、子どもたちが額に汗を浮かべて絵を描いています。「できたよ」「いい絵が描けたね」。おやつのはじめの遊び場へと走り去って行きます。市内にあるデザイン事務所・テイラミスが取り組む「青空おやつ」（左図参照）。今年1月、県の「かながわ子ども・子育て支援草の根賞」に選ばれました。

絵で私たちにできること

二人は公園にシートを敷き終えても、子どもたちを誘うことはありません。「描きたいときだけ、描いてくれればいい。言葉に出せない気持ちがあっても、絵を描くことでつぎりすることもある」と話す鈴木さん。松村さんは「子どもの引く線は、とてもいい。毎回、それを見られてうれしい。上手な絵だけが良い絵ではない」と、描いている子どもに声は掛けず、少し離れた場所からそっと見守ります。

優しさを未来につなげる

青空おやつは、回を重ねるごとに描いていく子どもが増え、顔なじみもできています。「子どもとの出会いなど、得るものはとても多い」と話す松村さん。「将来、参加した子どもたちの誰かが、公園で絵を描いたことを思い出して、何かを始めるきっかけになればうれしい」と鈴木さんはほほ笑みます。二人はこれからも心地よい距離感で、子どもたちの絵を見続けていきます。

青空おやつ展@アミューあつぎ

「緑のまつり」の来場者が描いた絵を展示。その場で描くこともできます。

日時 9月1日～10月1日
9～22時（映画館の開館時間）

場所 アミューあつぎ
☎広報課 ☎225-2040



特集：文化芸術をそばに

絵と音楽のちから

伸び伸びと描いた絵は誰かのためになり、豊かな音の響きがみんなの気持ちを軽くする。文化芸術には、楽しむだけではない、人の心に作用する力があります。特集では、絵と音楽を通じて、子どもたちやまちの未来のために活動する人たちを追いました。

☎文化生涯学習課 ☎225-2508

厚木の文化芸術

市内には、文化・芸術に親しめるサークルや講座などが多くあります。皆さんも参加してみませんか。

イベント情報

市内の文化・芸術関連のイベント情報を市HPに掲載しています。



文化芸術の秋

10・11月に、市民文化祭、あつぎ青空アート展などを開催します。（詳細は次号以降の広報あつぎに掲載）

講座予約システム

市や関係団体などの講座・イベントを掲載。申し込みには登録が必要です。



サークル情報

市内で活動するサークルなどの情報を市HPに掲載しています。



文化生涯学習チャンネル

美術や音楽などに関連する動画を公開しています。



☎文化生涯学習課 ☎225-2508

文化会館のイベント

文化会館は改修のため休館中ですが、他の公共施設などでイベントを実施しています。



文化会館HP



ハーブ奏者・堀米綾さんのコンサートは10月に開催します（詳細は広報あつぎ9月15日号に掲載）。

☎文化振興財団 ☎225-2588



小学校の演奏会では楽器の特徴なども紹介

堀米さんは、コンサートやレコーディングなど、幅広い分野で活躍する音楽家です。最近では、東京2020五輪・開閉会式、朝の連続テレビ小説「らんまん」の音楽にも携わるなど、2人の子どもを育てながら精力的に活動しています。ハーブとの出会いは7歳の時。テレビに映る奏者の姿に引かれたことがきっかけでした。以来、家族でコンサートに行ってもハーブばかりに目が行くようになり、親に「楽器をやりたい」と伝え続けました。念願のレッスンに通い始めたのは小学5年生の頃。「初めて楽器に触れたときのキラキラした気

忘れないキラキラした気持ち

バイオリンにチェロ、そしてハーブ。音色の異なる弦楽器の調べが豊かに重なり、文化会館のロビーに響き渡ります。6月に開かれた「ふらっとふえすていはる」のコンサート。最終曲の「花のワルツ」が始まると、子どもたちは席から立ち上がり、手をたたいたり体を動かしたりして、自由に楽しんでいきます。「子どもたちは大人と違うポイントで音楽を楽しんでいる。目の前で演奏して反応を見られるのがうれしい」。ハーブ奏者の堀米綾さん（恩名）は、穏やかな表情で会場の様子を見つめていました。

音楽を共有する喜び

ハーブ奏者 堀米綾さん



「花のワルツ」を聴きながら思い思いに楽しむ子どもたち

堀米さんが子どものための活動に力を入れ始めたのは、コロナ禍がきっかけでした。マスクを着けて過ごす息子たちの姿を見て「子どもたちのために何かしたい」と、強く思うようになりました。昨年度には市内の小学校6校でも演奏を披露。子どもたちは真剣なまなざしで聞か入っていました。音楽の魅力や「同じ空間にいる人たちが、音に身を委ねる時間を共有できること」と語る堀米さん。結婚を機に暮らし始めた厚木市で、音楽の輪を広げています。

子どもたちのために

堀米さんは、コンサートやレコーディングなど、幅広い分野で活躍する音楽家です。最近では、東京2020五輪・開閉会式、朝の連続テレビ小説「らんまん」の音楽にも携わるなど、2人の子どもを育てながら精力的に活動しています。ハーブとの出会いは7歳の時。テレビに映る奏者の姿に引かれたことがきっかけでした。以来、家族でコンサートに行ってもハーブばかりに目が行くようになり、親に「楽器をやりたい」と伝え続けました。念願のレッスンに通い始めたのは小学5年生の頃。「初めて楽器に触れたときのキラキラした気

持ちは忘れない。教室では先生がずっと褒めてくれて、通うのが楽しかった」と振り返ります。

そんな堀米さんも、その後進んだ東京芸術大学付属高校・大学では、周りのレベルの高さに自信を失い音楽の道を進むことを迷った時期がありました。「人前で演奏するのがとても苦手だった。思い返すと、知識と努力、経験が足りなかった。正しい練習が支えてくれると分かってから『何があっても大丈夫』と、演奏を楽しめるようになった」。卒業後もアルバイトをしながら演奏を続け、ジャズやポップスなど、ジャンルを超えた音楽家との出会いを重ね、活動の幅を広げていきました。



演奏を終えて子どもたちに笑顔を向ける堀米さん